

諦める「その前に…」一度は体験して欲しい“**実耳測定**”!(※)
補聴器を、引き出しに埋もれさせないために

～ メディア向け体験会を9月14日(金)に開催 ～

一般社団法人「日本補聴器工業会」が発表した補聴器に関する動向調査(2015年発表)によりますと、欧米の補聴器ユーザー満足度が概ね 80%であるのに対して、日本では約 40%と低い水準に留まっています。その差は欧米では国家資格を持った専門家(オーディオロジスト)が客観的なデータに基づく調整を行っているのに対して、日本ではユーザーの主観的な評価(聞こえる、聞こえない等)に頼って、商品を勧めるケースがまだまだ多いからです。

そこで、「The 補聴器専門店合同会社」(大阪市天王寺区)では、客観的なデータ収集法の一つでありながら、作業工程が複雑なため、日本ではあまり普及していない「実耳測定」(じつじ そくてい)を用いて、補聴器を再調整するサービスを10月末から始めることにいたしました。それに先立ちメディアの皆様にも、その測定法に基づく補聴器の試聴を体験していただければと思い「メディア向け体験会」を企画しました。大変お忙しいこととは存じますが、ご取材、ご体験いただければ幸いです。

◆ メディア関係者様向け 補聴器&実耳測定体験イベント

- ・開催日時:9月14日(金)10時～12時
- ・場所:大阪市天王寺区上本町5丁目2-11 上六新興産ビル6F
「The 補聴器専門店」店内にて
- ・内容:これまでの調整法と、新たに導入する実耳システムを活用した調整法の違いを最新型補聴器の聞こえ方の違いを通じて体験していただきます。

実際に補聴器を装着した状態で音圧測定



聴力・特性計測システム UNITY 3

※実耳測定とは…

鼓膜の前にマイクをセットし、外部からの信号音を自動測定します。結果、個人ごとに異なる耳内部の音の共鳴の違いを正確に把握し、補聴器調整に応用できます。また、ユーザーの主観でなくリアルタイムで音の過不足をモニターで判断でき、合理的かつ瞬時に音の調整が出来ます。

問い合わせ先:

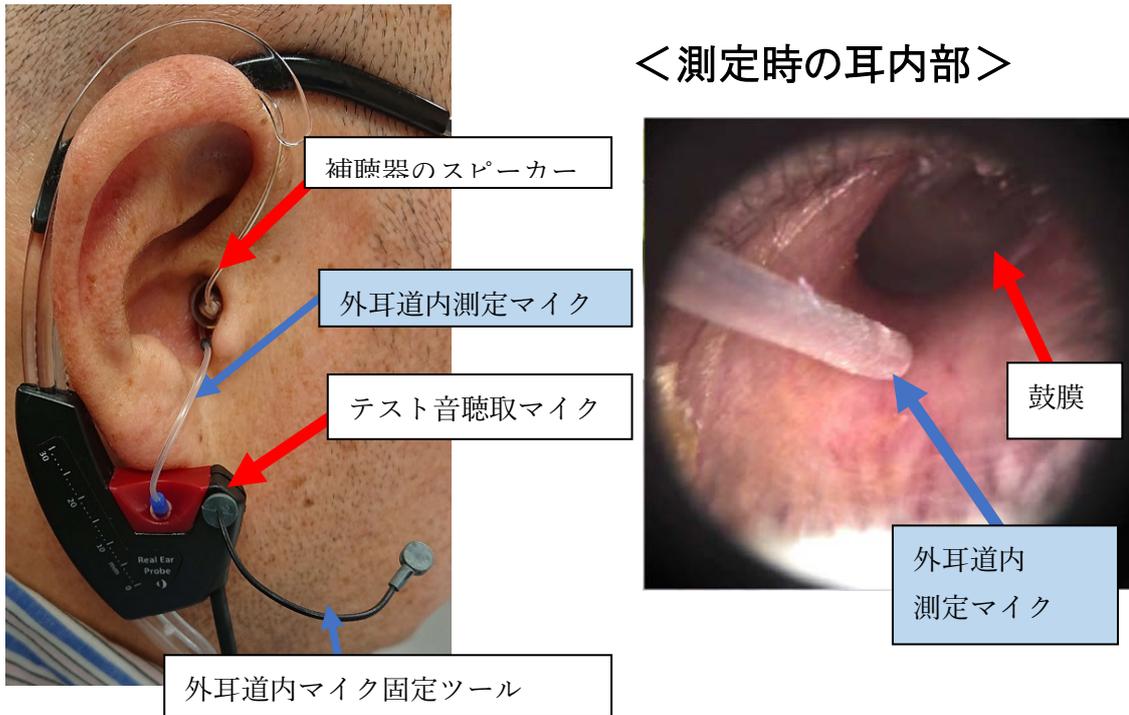
The 補聴器専門店 合同会社 担当:中村雅仁(ナカムラ マサヒト)まで

TEL:06-4305-7904 Mail:masajin14@kikoe.net URL:https://kikoe.net/

【実耳測定】

補聴器を着けた状態で、外部からの音がいかに「どの程度大きくなっているか？」を自動計算する測定手法。
(耳の中に専用の測定マイクを置き、外部からの信号音に対する増幅度をみることで測定可能)

⇒ これにより補聴器ユーザーの主観だけに頼らない、客観的で正確な補聴器調整が可能になります。



●一般的な補聴器の調整

従来の補聴器販売・調整の流れは聴力測定の結果を基に補聴器を合わせる手法です。

例えば、「高音部分が聞こえづらい」と言うユーザーの声に対応して高音部分を中心に音を増幅するようにパソコンで調整を行います。しかし、その調整の際の目標値は、あくまでも“標準的な人の耳模型をベースとした計算根拠”であるため、ユーザーごとの違いが正確に反映されません。パソコン上では「聞こえているはず」であるのに、実際にはお客様からは「聞こえづらい」反対に「キンキンする」「会話よりも周囲の音が気になる」といった反応が往々にしてあるのです。一方、**実耳測定を行うと...**

実際に聞こえている音(=鼓膜付近に到達している音)のデータを正確に取得できることから、

仮の目標値ではなく、真の目標値に対してスピーディー且つ正確に調整でき、満足度を得やすいのが特徴です。

実耳測定では最終的に何を測定するのか？

⇒ **実耳挿入利得** を測定します。

実耳挿入利得とは...

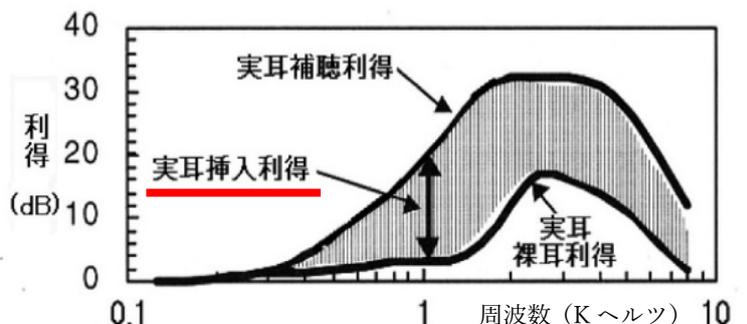
補聴器を装着した状態で外部音を測定した「**実耳補聴利得**」から、何も付けない状態で測定した「**実耳裸耳利得**」を差し引いた値のことです。

なぜ、この値が必要かと言うと...

その理由は、各人ごとの耳の個性差を反映した「正確な目標値」と、実際に補聴器を通して耳に届いている音の差異を把握し、正確な調整に役立てるためです。

例えば、会話聞き取りに重要な役割を果たす「中音部」(0.5~2Kヘルツ付近)が目標値通り出ているか？

「キンキンする」要因となる高音部(3~4Kヘルツ付近)は目標値に対して出過ぎてはいないか？ユーザーの要望を聞く前の段階で、「どの周波数を何デシベル変更すれば良いか？」あらかじめ把握し、対応することが可能です。



【国民生活センターに寄せられる補聴器に関する相談】

国民生活センターが平成 26 年 2 月発表したデータによると 10 年間で 2.2 倍も相談件数が伸びています。

※毎年約 20%近く、相談が増えていることに

また、相談事例から見た問題点としては、以下のようなものが挙げられています。

1. 自分の聞こえの状態を理解しないまま補聴器を購入している
2. 高齢者が一人で店舗に出向き、補聴器の特徴、メンテナンス(調整)などについてよく理解で契約している
3. 補聴器に関して、販売の知識技能やサービス体制が十分でない場合
4. 聞こえの把握や購入の目的にあった販売が行われているのか疑わしいケース 等

【弊社の実耳測定導入への想い】

連日、大阪だけでなく、全国から補聴器に関するお悩みのご相談を頂きます。

「片耳 20 万円もする補聴器を買ったのだが、うまく聞こえない」「母親が補聴器を使ってくれない」等。

これは、私が業界に入った 18 年前とほとんど状況は変わっていません。補聴器自体は年々進化し、高性能化しているにも関わらず、その「調整過程」に進化がないので、「補聴器のパフォーマンスの最大化」が出来ておらず、期待値とのギャップが多いのだと考えます。故に補聴器調整における実耳測定の実施は、必須だと思っております。

【実耳測定を活用しての新サービス、スタート】

補聴器再スタート(キックオフ)コース

実耳測定の導入スタートを機に、当店のお客様だけでなく、他店で購入された補聴器で「合っていない」と感じておられるユーザー様についてもご相談を承る「補聴器再スタート キックオフコース」をスタートします。

「補聴器を引き出しに眠らせない」をコンセプトに、実耳測定に基づいて補聴器再調整を行う内容となっています。

- 所要時間90分 5,000円
- 内容: 質疑、聴力確認、言葉の聞き取りテスト、現在の補聴器確認、実耳測定、再調整

【当社につきまして】

The 補聴器専門店合同会社(店舗名: The 補聴器専門店中村)

補聴器メーカー、シーメンス補聴器(現シバントス株)出身の代表、中村雅仁が 2012 年に開業。

補聴器業界歴 18 年、約 7000 件以上の補聴器相談を受ける。

現在は「視覚で効果が確認できる補聴器専門店」をコンセプトに、大阪上本町で完全予約制の補聴器専門店を運営。自店にとどまらず、補聴器情報の拡散を目指し、ホームページや YouTube 活用による解説動画を 800 本超アップする他、業界では初となる認定補聴器技能者による単独補聴器解説本「間違いだらけの補聴器選び」(コスモ 21 社)を 2012 年に出版。※アマゾンランキング耳鼻部門初登場2位

